

2013 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学研究科
評価基準 5	学生の受け入れ
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
評価の視点	求める学生像の明示
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示
	障がいのある学生の受け入れ方針
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
評価の視点	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
点検・評価項目(3)	5-3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
評価の視点	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
点検・評価項目(4)	5-4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

5-1	本研究科の「学生の受け入れ方針」(アドミッション・ポリシー)は、「スポーツ・健康科学研究科(修士課程)は、学位授与の方針(ディプロマポリシー)、教育課程編成と実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、下記のような学力および意欲を有する人材を求めます。①スポーツ科学、健康科学を学ぶのに十分な基礎的知識を有する人、②スポーツ活動に対する心身の適応と行動、健康や医療に関する研究に積極的に取り組むことのできる人、③スポーツや医療・健康増進活動を通して、健康の維持・増進に貢献するために、広い視点から高度な専門的知識、技能を身につけようとする人。」と大学 HP、大学院案内、大学院の手引き等に明文化されている。大学院入学試験要項には、一般、社会人、外国人留学生、現職教員を対象に出願資格が記載されているが、本研究科に入学するに際して修得しておくべき知識等の内容・水準については明示されていない。障がいのある学生を受け入れる手続きについては学生支援センターを中心に整備を進めている。
5-2	本研究科における一般入試は、本学部卒業生、本学の他学部学生、及び他大学の卒業生を対象とし、選抜方法は英語、専門科目、小論文の筆記試験、口述試験(卒業研究あるいは研究計画概要の発表、及び口頭試問)である。社会人入試は、入試の段階で現職の保健体育教員、健康運動指導士、スポーツインストラクター、スポーツトレーナー、介護福祉士、看護師、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師、食品衛生管理者・食品衛生監視員、作業環境測定士などであり、定員は若干名とする。選抜方法は英語、専門科目、小論文の筆記試験、口述試験(社会活動・経験概要あるいは研究計画概要の発表、及び口頭試問)からなる。外国人留学生に対する入試は、日本の大学卒業と同等の学力を有する者を対象とし、定員は若干名とする。選抜方法は日本人受験者と同様、英語、専門科目、小論文の筆記試験(日本語のみ)、及び口述試験(研究計画概要の発表と口頭試問)からなる。
5-3	本研究科の 2013 年度の収容定員に対する在籍学生数比率は 0.85 であるが、入学定員に対する入学者数比率の 5 年間平均値は 1.22 となっている。開設されてから過去 5 年の入学者数は、2009 年が 19 名、2010 年が 10 名、2011 年が 15 名、2012 年が 11 名と順調に推移したが、2013 年は 6 名であった。志願者 7 名のうち 1 名は不合格となった。2013 年度については、入試説明会を例年の年 2 回に対して、年 5 回開催した。さらに学部 4 年生のガイダンスにおいて大学院入試説明会を開催するなどの募集活動頻度を増加させる対策を講じた結果、2014 年度秋季入試では、すでに 9 名が入学手続きをしており、春季入試の受験生も多いことが確定している。
5-4	学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているが、定期的な検証は行っていない。また、責任主体・組織、権限、手続きは明確になっていない。

【効果が上がっている事項】

5-1	
5-2	
5-3	
5-4	

【改善すべき事項】

5-1	募集要項などに修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。
5-2	
5-3	

5-4	学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているか、定期的な検証を行う。また、責任主体・組織、権限、手続きは明確になっていないので検証システムを構築する。
-----	---

III 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

大学HP、大学院案内、大学院の手引き

【2014年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	募集要項などに修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。	大学院HP、大学院案内、大学院の手引きに記載されている。	→					
	学生募集および入学者選抜が学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているか、定期的な検証を行う。また、責任主体・組織、権限、手続きは明確になっていないので検証システムを構築する。	検討結果が研究科委員会議事録に記載されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。	→					
14年度 目標	研究科委員会において、募集要項などに修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する方法について自己点検評価委員会を中心に検討する。	検討結果が研究科委員会議事録に記載されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。	→					
	研究科委員会において、学生募集および入学者選抜が学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているか、また、その責任主体・組織、権限、手続きを明確にする方法について自己点検評価委員会を中心に検討する。	検討結果が研究科委員会議事録に記載されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。	→					